

目 次

1. 日本労働社会学会第 32 期第 1 回幹事会(2019.12.7)議事録
 2. 研究例会の報告者募集について
 3. 日本労働社会学会年報 2020 第 31 号の原稿募集について
-

1. 本労働社会学会第 32 期第 1 回幹事会議事録

2019 年 12 月 7 日 (土) 13:30~15:30

於：専修大学 神田 7 号館 8 階 784 教室

出席者：中園、江頭、萩原、小村、小尾、柴田、谷川、宮下

議事次第

I 第 32 期の課題

中園代表幹事より以下の点が提起された。

1) 幹事会の体制

- ・現行は代表幹事 1 名であるのに対して、副代表幹事 (名称も含めて) を置くことを検討したい。代表幹事 1 名では、毎回会議に代表幹事が出席しなければならないことから、代表幹事か副代表幹事のどちらかが出席することを可能にする体制としたいとの旨が報告された。
- ・2020 年の総会では選挙を行なわれ幹事の入れ替えが行われることから、任期が終わる人は 33 期の後任を探しておくことが確認された。

2) 奨励賞 (論文の部) の規定整備

研究活動委員会が素案を作成し、次回幹事会で協議する。また若手の意見を聞く場を設ける必要があるのではないかとの提案があり、素案が固まった後、通信等により意見を求めることになった。

3) 学会の自由論題報告のエントリー方法の変更

研究活動委員会が素案を作成し、次回幹事会で協議する。

4) 第 32 期の幹事会について

- ・第 2 回幹事会の日程については、基本的には 3 月 7 日 (土) で実施するとして、都合の悪い人を ML で確認のうえ決定することとした。
- ・第 3 回の開催については、東京でオリンピックが開催されることから、名古屋で開催することを検討し、宮下委員が場所の調整を行うこととした。
- ・第 4 回の開催については、第 32 回大会の開催校である大阪経済大学で、プレシンポジウムの開催日に合わせて実施する方向で検討していく。

その他に以下の意見が出された。

- ー学務のスケジュールが変化してきていることから、3月、7月、9月は入試等と重なり参加が厳しいのが現状である。開催時期を検討しても良いのではないか。
- ー研究例会がない場合にはオンライン会議やメール会議の導入を検討しても良いのではないか。

5) 第32回大会について

- ・第32回大会の開催日は10月9日(金)～11日(日)を第一候補とし、第二候補は10月2日(金)～4日(日)とする。
- ・プレシンポジウムは、登壇者の都合を調整し、8月下旬から9月上旬に第32回大会の開催校である大阪経済大学で開催する方向で検討していく。

II 第31回大会総括（11月1日～3日、早稲田大学所沢キャンパス）

- ・中囀代表幹事が、開催校の橋本会員からの資料をもとに報告した。
- ・大会開催費の残金の振り込みが終了したのか現段階では不明であるため、会計の中囀幹事に確認を求めることとした。

III 委員会報告・協議

1 『年報』編集委員会

宮下幹事より下記が提案された。

- ・31号のスケジュールについて、第32大会の開催が10月上旬と例年より早くなることから、大会開催前に発行を目指すものの、投稿論文査読の進捗状況に左右されることが報告された。
- ・引用文献の表記や申込方法などについて、3月に投稿規定改訂を提案することを決定した。
- ・年報のスムーズな発行確保のため情報を収集することとした。

2 『労働社会学研究』（ジャーナル）編集委員会（井草幹事よりメールにて事後報告）

- ・論文5本のうち、1本が掲載決定（修正中）、2本が査読中（うち1本は研究ノートから論文に区分を変更）、1本が掲載不可、1本が投稿を取り下げたことが報告された。
- ・ジャーナルの発行時期については、査読者で意見が分かれ第3者の査読者をたてたり、査読が遅れていたりすることにより遅れる予定である。

3 研究活動委員会

萩原幹事より以下が提案された。

- ・第31回大会について、工場見学記、自由論題報告等の資料が出揃ったことが報告され

た。近々、通信にて会員へ配信する。

- ・第32回大会シンポジウム企画について、労働者教育をテーマに、理論と実践が共有できるような企画を検討していることが報告された。

- ・大会自由報告のエントリーについて

－「エントリーした・受け付けていない」といったトラブルをなくすために、受け付けたら返信をすること、締め切りを過ぎたエントリーは受け付けないことを確認した。自由報告エントリーの呼びかけ時に、余裕をもってエントリーすること等を呼びかけることとした。

－エントリー専用のメールアドレスを作成するか、エントリーの宛先を複数名にするかについては、研究活動委員会の中で話し合っ決定することとした。

－当事者同士にやりとりをさせないという内規を策定すし、学会として対応することとしたい。

- ・学会奨励賞（論文の部）の規定見直しについて、運用規定バージョンと改定バージョンの2パターンを作成し、第2回または第3回幹事会にて提案し、検討していくこととした。規定を見直すにあたり以下のような意見が出された。

－若い世代を育てるという視点を重視する、若手を奨励する、という目的を明確にするのであれば、「若手奨励賞」とすることを検討しても良い。

－現在の学会奨励賞（論文の部）は、学会奨励賞（著書の部）があつて（論文の部）となり、ハードルが高くなり、実際に該当者が少なくなるという問題もある。

－投稿することが「若手奨励賞」に該当するチャンスになるのであれば、投稿するモチベーションになる。

－今までのように推薦という形になると、ネットワーク等が関係してくるという問題点もある。

－ジャーナル、年報を中心にすべてを候補にする、とするのであれば運用内規で行うのか、規定を改めて策定するのか検討する必要がある。

－若手の意見を聞く必要がある。パブリックコメントの募集等を検討していく。

4 関西部会

特になし（伊藤幹事の資料をもとに小村事務局長が報告）

5 社会学系コンソーシアム担当

- ・中団幹事より1月にシンポジウムおよび理事会が開催予定、詳細はホームページに掲載されていることが報告された。

6 社会政策関連学会協議会担当

小村幹事より特になしと報告があった。

7 学会ホームページ担当

特になし（伊藤幹事の資料をもとに小村事務局長が報告）

8 デジタル化担当

江頭幹事より以下が提案された。

- ・J-stage 登載に関わる経費の見積について、3 社（創文印刷工業株式会社¥885,500、株式会社ジェイピーシー¥592,000、株式会社ムサシ¥328,900）が提示された。
- ・各社とも作業内容に不明な点があり比較できないので、第2回の幹事会までに作業内容について3社に再確認することとした。

9 会計担当

- ・第31回大会のシンポジウム報告者への謝金、幹事会出席者への旅費は当日支払いが原則であるが、会計担当者の欠席により、シンポジウム担当者については後日振込、幹事会出席者については未払いとなっている。
- ・振り込みでの対応を検討することが提案されたが、監査の際に、その際は費用発生と支出、受領確認ができるよう、どのような手続きにするのか（領収書を発行するのか、振込記録で対応するか等）等についてルールを明確に策定する必要があることから、会計担当で振り込みに関する方法を検討することとした。

10 事務局

小村幹事より下記が提案された。

会計の仕事として第32期は、名簿の発行がある。これまでは名簿の整備に関して会員に確認をしていなかったが、年会費の振込み書の通信欄に、名簿に記載する内容をすべて記入してもらうことを決定した。日本学術会議から会員および幹事会の男女別の数を報告する必要があることから、性別の把握についても検討する。年会費の振込み書の通信欄をもとに名簿管理を委託しているワールドミーティングに名簿の加筆修正を依頼する。またその際の費用について確認する。すでに振り込みが済んでいる会員については、事務局で確認する。

Ⅲ 入会、退会、会費減免申請

高畑幸氏（静岡県立大学）の入会が承認された。

次回、第2回幹事会（予定） 2020年3月7日（土）13:30～15:30

専修大学 神田7号館8階784教室 研究例会783教室

2. 研究例会の報告者募集について

研究活動委員会では自由な研究交流と議論の場として毎年3月、7月に研究例会を開催しています。現在、研究活動委員会では下記の要領で、2020年第1回研究例会(3月)の報告者を募集しています。

開催日時：2020年3月7日(土)午後3時半～6時(予定)

場 所：専修大学神田キャンパス(詳しい開催場所等は追ってのご連絡となります)

報告者：2名程度

※報告時間との兼ね合いで、定員を超える数のお申し込みをいただいた場合には、先着順とさせていただきますので、あらかじめご承知おきください。

交通費：報告者が100キロ以上遠方よりの参加で、非常勤または院生の場合は、2万円を上限に交通費が支給されます。

必要事項を明記の上、**2月10日**までにお申し込みください。

【必要事項】

氏名

所属

報告タイトル(仮題でも可)

報告要旨(400字程度)

申し込み先 3月研究例会担当 柴田徹平会員 s_teppeii@iwate-pu.ac.jp

研究活動委員長：萩原久美子

3. 日本労働社会学会年報2020第31号の原稿募集について

日本労働社会学会年報2020第31号に掲載する、論文、研究ノート、その他の原稿を募集いたします。

投稿予告及び原稿執筆・提出にあたっては、投稿規程をよくご確認ください。また、「二重投稿に関するチェックリスト」をご一読のうえ、投稿論文の原稿提出時に同リストを併せてご提出ください。

<刊行スケジュール>

投稿予告締切：2月29日(土)

原稿提出締切：4月1日(水)

出版予定：10月

投稿希望者は、下記事項を明記の上、年報編集委員長（miyashita” at” hum.nagoya-cu.ac.jp : ” at” を@に置き変えてください）に投稿予告を行ってください。

件名：学会年報投稿予告

本文：(1)氏名、(2)郵便番号と住所、電話番号、e-mail アドレス、(3)所属機関・職名、同電話番号、(4)論文、研究ノートなどの区分、(5)論文題目

☆なお、年報編集委員会では投稿予告受領通知を5日以内に送信します。これが届かない場合には、事故の可能性ありますので、問い合わせてください。

日本労働社会学会年報編集委員長
宮下さおり

★日本労働社会学会事務局（第32期）★

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会 労働政策部

小村 由香（おむら ゆか） 気付

TEL: 03-5778-8553（直通） FAX: 03-5778-8478

E-mail: yuka.omura@nurse.or.jp 学会 HP: <http://www.jals.jp/>

★2020年度年会費納入のお願い★

【郵便振替口座】口座番号：00150-1-85076 加入者名：日本労働社会学会

年会費 学生・院生会員：6,000円 一般会員：10,000円

会費減免制度については、下記URLをご参照ください。

<http://www.jals.jp/discount/>

★住所変更とメールアドレス変更した場合には、必ず事務局に連絡をお願いします。